

遠隔自然地を身近にするサイバーフォレストの ライブ音・録音とサブスクリプションサービスの 考察

○齋藤馨*

サブスクリプションアルバム

2019年10月ライブモニタリング8地点のライブ録音を音源にしたサブスクリプションサービス（以下「サブスク」と記す）配信の契約を進めていた。大学が録音物を販売する前例がないために手続きに難渋したが、2020年2月20日ファーストアルバム¹、4月24日セカンドアルバム²をリリースできた。従来からライブ音と録音を即時公開しており、誰もがそれを聞いたり、録音ファイルをダウンロードできる。サブスクのアルバムに収録したトラック（自然音なので曲でなくトラックと名付けた）は、サウンドエンジニアが音源調整等のマスタリングしたものである。マスタリングは膨大な録音から特徴的な1時間の録音を選び、マイク至近の鳥の声や自然音に対して大きすぎる車などの人工音をカット編集する。その場所と時間帯の自然音を中心に残しつつ、場所特有の人工音も残す。エコーやリバーブ、音楽やナレーションは入れない。従って全トラックには必ず無料公開されている音源が存在し、それを聞けば実時間のその場所の環境音を聞ける、つまり現実の音環境を確認できる。公開している録音ファイルは、地点と年月日時分のタグ付けがあるので、その場所その時間の気象や生物と人間活動の環境音録音であり、これをマスタリングしたトラックは、録音を情報源情報と捉えれば、それを分析評価してとりまとめた作品となり、これはバックデータのある論文に例えられよう。何年間もの録音から「1時間を選び」、冒頭のように抽出するトラックは、自然音が「図」とし、それ以外は人工音を含めて「地」となる箇所を8分に「集約」している。自身の原風景ともいえる環境の原体験音を持つリスナーがトラックを聞くと、そこで鳴いている鳥の種類や雨風の強弱ではなく、各自各様に原体験音との関係を思い浮かべることができ、これがサブスクトラックの自然音に癒やされると感じるのではないだろうか。トラックに集約に自然風景音の普遍性ではないだろうか。

風景と視点の変遷

回遊式庭園は、池を掘って築山を造り、そこからの眺めを愛で楽しむ。見晴らせる高みが提供する視点からの眺めが目的とする風景となるし、作庭はそれを目指す。そして縮景や見立ては写実ではなくて写意となり

ものとしての庭から、見本となるものやことの知識とも組み合わせられ、より内なる気持ちが庭の造作よりも意味を持ち、まさに造園となる。庭という地物空間から人の思いや楽しみへと連なるわけで、これを無理矢理だが人の知覚から感覚、感情へとつながる一連の過程と捉えて、それを風景と名付けている気もする。築山の見晴らし台は視点だが、これを真面目に記せば人の目の位置となり、繰り返しになるが生身の人がその目で見る見ることが風景の基本である。庭園内に人工的に作る築山の高さはしれているが、スカツリー展望回廊ならば視点高450mにもなるし、自然地ならより高くても良い景色が得られる。離宮などを構えるときはまずは良い場所を選ぶ「選地」があり、風景も重要な要素となる。これは先のサブスク音源となる「1時間を選び」とも通じると言いたい。高い山の山頂の眺望は良いはずで、今なら展望をもとめて山に登るのは当たり前だ。しかし江戸時代ならば、悟りを求める修験者でもないかぎり山頂を目指すことはあり得ないし、そもそも修験者は風景を求めてはいない。富士山の風景を大量コピー絵画技法の浮世絵に描いた葛飾北斎の富嶽三十六景が描かれている視点の多くは街道沿いや宿場であり、眺望の開けた絵であってもそれは街道の峠であって山頂ではない。視点あつての風景、つまりは見る人が多くてはじめて共有できる風景となり、さらには行ったこともない人でさえ出回っている浮世絵を見て共有したのではなかろうか。これはインターネット上のSNS (Social Networking Service)と同じかもしれない。

人々が共有する風景はそれを見る人の多さや頻度が必要で、上記の人の往来の多い街道からの富士山の眺めのように、視点に必然的に集う人々とともに変化する。これを踏まえて風景対象となる資源と、移動手段から見た視点の移動について、観光資源としての自然とその保護の観点から変遷をざっくり整理したのが表である。

表 風景対象と視点移動手段の変遷

-
- ①19C後半～20C初 周知のアルプス山脈を山岳リゾート地とする観光<垂直移動・山岳>観光機械：山岳鉄道・ケーブルカー・ロープウェイで到達容易な視点創造
 - ②1872 国立公園 見たことのない新大陸の原生自然地<未知への水平移動・原生自然>アメリカ横断鉄道と西部開拓・環境破壊と自然保護とを体験する視点創造
 - ③1972 世界遺産 全球移動と人類の過去を継承する文化遺産（文化8割/自然2割）<水平と垂直・過去文化への移動>ヨーロッパから世界に、モータリゼーション・ジェット旅客機大量観光客輸送による全球への視点拡散
 - ④2072 かけがえのない唯一の地球環境<ICTの成熟>Sense of Globe：全球感覚。サイバーフォレストで実践実証中
-

*東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻

19C後半から現在までの表中①②③の風景体験は、全ては人が移動して直接に体験することである。対象は、①眼前アルプス山脈が見えるも到達できなかった山頂近が容易に到達できるリゾート地。②西に延伸する鉄道と開発のなかで見たこともない原生自然地の保護と観光③人類の過去を今に伝える文化遺産が観光資源。これらには旅行記や写真、案内書、ラジオやテレビ番組、そしてビデオ・DVDとその時代時代のなどのメディア、つまりこのフォーラムでいう「情報」によって観光資源が評価されながら、人が移動して風景体験をしている。

身近な遠隔自然地から全球風景へ

図中2に、景観把握におけるhereとthereについて五感との関係を模式で示した。視覚は遙かアンドロメダ星雲まで届く（正確には光が届く）が他の感覚はhereに留まる。図中1のように幼児期は五感全てが身の回りに留まるが、それは生存に関わるからであろう。そして大人は視覚優位となり、風景もここにある。移動とともに視点も移動するので遠くにまで視覚が及ぶが、これも生存と関係する。そしてインターネットあつてのSNSでは、写真や動画を誰もがどこからでも投稿できて、不特定多数がこれを見ている。人気の投稿は、それがたとえ行ったこともない地球上のどこであれ、多くの人と共有されて、そこが皆の共通な風景となったりもする。このように五感の中で視覚は既に図中2から3へとインターネットによって全球へと拡張されていることに疑問はない。斎藤（2017）³⁾は、遠隔自然地ライブ音によりhereを全球に拡張する試みを表1④2072年を目処とした。ICT成熟の中で聴覚を全球に拡張できれば、人の意識を地球環境に向けられるだろうとした。しかし本稿ではこれとは逆に図中3から2へと、インターネットによる遠隔自然地の音が聞く人の「身近な空間」に音を伴って風景を運んでくると感じると考えは始めている。

自然や文化を観光資源と捉えれば、観光地側はどれほど多くの人に頻繁に訪れてもらえるか、旅行者ならどの観光地にいつ行ってどう過ごすのかで風景が成り立つ。そして観光資源の持続には保護とのバランスが必要となる。文字の旅行記に始まり、絵画、絵はがき、写真、映像と多様なメディアが観光地を紹介する目的は、観光客がそこに行くことである。2世紀以上わたり風景とはそういうことだ。インターネットもこれに加わっている。がしかし遠隔の音を扱うことが、遠隔自然風景が自分の身近な空間に広がると仮説しているのが本稿である。

再びサブスクリプション

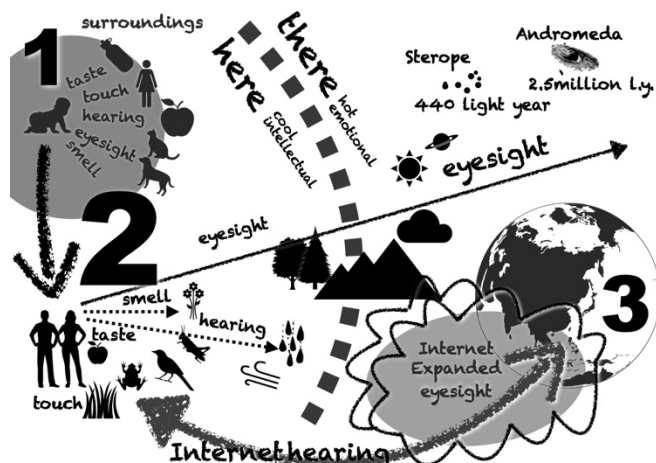


図 視覚の発達とインターネットが拡張する視覚と聴覚

1. 幼児の五感 2. hereとthere 3. インターネット上の視覚聴覚

サイバーフォレストの野外常設無人マイクで録り続けていてその音質はCDに劣り商用不適とされた。スマホで再生しイヤホンで聞くサブスクは若者で、自宅オーディオで聞くのは年配者だ。1曲入魂でなく、イヤホンで連続再生をしながら聞きするのは日常聴覚体験に近い。サブスクの人気曲とは、往年音楽ファンには長年親しんだアーティストだが、サブスク世代は日常に接する歌声や楽器の曲であり耳元近くで聞こえる音である。そこに自然音も入る余地が出てきたと考えるのが妥当だと思う。

原風景と結びつく風景体験のように、原体験的な音と結びつく、つまり自分なりに解釈して聞くことができ、かつ日常体験的な聴き方ができる音として、自然音がアルバムやトラックとして受け入れられるのではないだろうか。サイバーフォレストの各地のマイクの録音音源から選んで、その場の自然と文化を損なわない程度のマスタリングによって、多くの人が受け入れられるトラックをきっかけにして、遠隔自然地のライブ音を聞き、その膨大な録音アーカイブをたどってみることにつながる気がしている。そうなれば、改めて全球環境を身の回りと同じように感じて、その保全にたいしても行動できるようになる。

COVID-19で、移動せずにリモートワークなどインターネット越しのコミュニケーションが始まった。インターネットの先にある自然「サイバーフォレスト」のライブ音・録音とサブスク、そして風景はどう関わるだろう。

補注及び引用文献

- 1) https://lnk.to/cyberforest_album001
- 2) https://lnk.to/cyberforest_album002
- 3) 斎藤馨(2017): 全球環境知覚基盤 Sense of Globe 2072: 風景計画研究: 2: 4-5: <https://landscape-rp.jila-zouen.org/wp-content/uploads/2019/04/landscape-planning-research-vol.2.pdf>